

8最後のあがき？否、新たな可能性の追求？「教育協働セミナー」の次なる形は?!

堂本 彰夫

(1) 折角の原稿執筆依頼があったので、それに関わる論稿を加えることにした！

もう、ここでの「新・教育協働への道」の執筆も、一応終わりにしようかと考えていた矢先であったが、思わぬ原稿執筆依頼があり、折角なので、ここに、それに関わる論稿を加えることにした。ちなみに、その原稿執筆依頼であるが、こちらも、もうそれはないだろうと、卒業を意識していた(諦めていた?)、例の『社会教育』(日本青年館)からの依頼である！何でも、今年の5月号に、最近紙面を賑わせている「学校の部活動の地域移行」についての特集を組むということで、私にも、関連の論稿をお願いしたいということであった。そして、その依頼文(メール)には、「本誌『社会教育』2013年10月号99ページの、『土曜日』の学校・地域・家庭と社会教育(井上講四先生の提案)の図がとても気に入りました。(10年前ですが、この立体的な図が、役に立つ時だと思いました)」とも書かれていた。

ということで、上記の、編集長Kさんからの甘い囁き?にはだされ、そして、「よくぞ、そんな昔の?図を見つけてくれたものだ!」と思いつつも、「やっとな?その図が日の目を見る時がきたのか?」とも思い、今の私には、それなりに複雑な心境ではあるが、引き受けることとした次第である！なお、件の図は、そこでの註にも書いていたが、私の教え子であった、当時の大学院生丸谷由君の、何とも素晴らしい作図で、簡単に言うと、私の元図(「教育の三層構造図」)からの発展、よりよい活用のための(分かり易く、説得力のある!)応用図?であった(ということは、当然彼に、同図自体の著作権はある!)！

しかるに、その図はともかく、思い起こせば、これまで、難解で(本人は、さほどそうとも思っていなかった?)、読みにくい(句点や括弧書きがやたら多い?)論稿を、実に沢山書いてきたものである(中には、単行本になったものもあるが!)?!もちろん、それが「仕事」であり、いわゆる「業績」の一番に位置づくものであったが、こうして、改めて、そうした論稿や自作図を振り返ると(もちろん、その一部であるが!)、よくぞ、こういうことを書き、図も作ってきたものだと思うが(我ながら感心する?)、とてもじゃないが、今の、そしてこれからの私には、到底そういうことはできない!否、したくもない(実際、無理である!)?!

さらに、ほとんどが自己満足?で、現場実践には役立っていない?!時代の片隅に放り投げられているか、処分を猶予されて、本棚やファイルに静かにしまい込まれているか、はたまたUSBという、小さな記憶ボックスに収納されているかであるが、いつのまにか、その所在さえ、覚束なくなってしまう!こんな研究者・学者?は、私以外には、あまりいないであろう(その意味で、私が研究者/学者ではなかったということは確定している?)?!そんな訳で、みっともない自己開示ともなっているが(しかし、これが、卒業、そして引退という、厳しい現実であろう?)、以下、しばしそのことは忘れて?、本題に入っていくことにしよう!

(2) 「部活動の地域移行」この問題は、ある意味「必至」であり、「本質的な課題」を提起するものである!

そこで、まずは、ここでは、この「部活動の地域移行」の問題は、ある意味「必至」であり、「教育」に関わる「本質的な課題」を提起するということを主張しておきたい!もちろん、眼前の課題は、顧問教員の負担(過重労働)、そしてそれを、「教職員の働き方改革」の一環として、どう解決していくのかということであるが、そもそも「学校の教育活動」は、最早「質的にも、量的にも」、今の枠組みでは、到底対処出来るものとはなっていないということである?!増えることはあっても、減ることのない負担が、常に付加される状態になっているということでもあるが(「教科書」は薄くなっても?「教科数」は、さほど変わらなくても!)、教科横断型(「コアカリキュラム」等)と呼ばれるような指導(学習)内容の組み込みや広がりを見れば(キャリア、食育、安心・安全、金融、ITC、さらには「郷土学習」等)、それは、まさに一目瞭然であろう?!

ただし、それは、もちろん必要・必須な指導(学習)内容であり、しかも、近年の「社会に開かれた教育課程」というような方向性においては、至極当然だとも言えるわけである!ただ、一方で、それを担当する教職員の負担・対応能力は、基本的には、そうっておらず(ある意味当然である!)、さらには、学級崩壊とか、いじめの潜在(or 顕在?)、あるいは、現下の「新型コロナ感染」による予期せぬ負担、重圧の連続による心身の疲弊(同僚性の脆弱化→孤立・孤独化)、そして、病気等による「休職」が増えている!いわゆる「研修」の充実、今はやりの「リスキリング(学び直し)」の必要性・有用性等が声高に叫ばれても、多くの教職員には、その福音は届いていないのである(だから、「働き方改革」は、「働きがい改革」であって欲しい!)?!

ところで、一方で、このような状況を見るにつけ、この問題は、実は1990年代初頭の、かの「学校週5日制」の導入期の問題(論議)と、ほぼ一緒のような気がする?!当時、「(土曜日の)地域の受け皿づくり」とか「土日の教育力」とかというようなことが、しきりに言われていたことを思い出すのであるが、結局は、

そこでの本質的な課題解決が先送りにされていたということであり、その課題の大きさ、難しさが、さらに増大しているとも言えるわけである（だから、大変なのでもある？）？！

例えば、この「部活動の地域移行」の問題は、同時期（少し遅れた？）に主張され、導入された、かの「地域総合型スポーツクラブ」（文科系の活動も、一部組み込まれていたところもあったように記憶しているが？）のあり方等とも、課題を共有していることは明らかである？！すなわち、今回は、直接的には、いわゆる「スポーツ系の部活動」の、しかも、土日等の休日での活動の仕方が議論されているわけであるので、この「地域総合型スポーツクラブ」のあり方は、その問題と直結していたとも言えるということである？！

したがって、それは、そそくさとした、「臨時職員」あるいは協力者の採用・配置等とは訳が違うということであるが、とにかく、そのことに気がついた人達が、何とか本質に迫る課題解決への動きを創り出していかねば、事態はもっと深刻となる？！そういうことでもある？！「理想を言うな！」と言われれば、それまでだが、そのツケ（問題の先送り）は、最早限界にまで達している？！繰り返しになるが、部活顧問教諭の代替・代行、あるいは、それを引き受ける当座の指導員／協力者の確保（アウトソーシング）の問題ではなく、これまでの学校と地域社会の関係を、さらに言えば（厳密に言えば？）、学校教育と社会教育の連携・協力のあり方を、どのように構想（再構築？）していくのかという問題であるということである！

(3) 新たな対応のしくみを、自ら構築していく他ない！そして、それは、これまでの発想（取り組みのスタンス）を抜本的に変えていくものでなければならない？！

ということで、この問題は、一部響きを買うかもしれないが、一つの大きなチャンスであり、変革への一ステップとなるということでもある（往々にして、目の前の大きな課題・問題とならなければ、多くの人あるいは行政は重い腰を上げない？）！そして、そこで出てくるのが、例の「総合教育政策」、私からすれば、まさに「地域における教育協働」のあり方／しくみづくりであるということである？！だが、まだまだそのような捉え方は、残念ながらなされておらず、取り組みや問題意識も、それこそ千差万別である？！例えば、某県のマスコミ紙によれば、教職員の意識（認知状況）もさることながら、子ども達や保護者への説明等は、ほとんどなされていないようである（現時点では、重要課題とは意識されていないということか？）！

しかも、明らかのように、学校の部活動といっても、学校段階（小・中・高）によって、その態様は違っているし、さらには、現実的な問題として、大会等での勝利を目指す、いわば「競技スポーツ」的なものと、それに親しむ、あるいは健康・仲間づくり的な「楽しむスポーツ」とでは、その扱いはかなり違ってくる！そして、何より課題となってくる（意見の対立を生む？）のが、土日（休日）と平日の活動を、いかにリンクさせていくかということである（競技力や意識・モチベーションの維持・向上の問題）。

そして、さらに、そんな中で懸念されるのが、「学校での部活動」が、いわゆる「教育課程外の教育活動」であり、それが、今新たに学校教育に必要なのかということが俎上に上がり、例えば、あっさり「地域移行にすればよい！しかも、やるかやらないかは、まったく個人の自由である！」というような結論が出され、結局は、そうした教育（学習）活動が、「こっち（学校）からあっち（地域社会）へ」という一方的な落着となり、折角の「学校教育と社会教育の合力の形」が模索される機会が、そこで閉ざされてしまうということである？！もちろん、それが、関係者の総意であれば、それはそれでよいのであるが…？！

そこで、ある意味常識的な提案とはなるが、まずは、短期的な視座と長期的な視座、双方を有しながら、「学校教育関係者」と「社会教育関係者」が同じテーブルに立って、この問題の解決に取り組んで欲しいということである！そして、それが、実は大きな意味をもつということである（「教育は一つ」なのであり、単純な「代行探し」だけで、終わって欲しくないということである！）！さらに言えば、それが、「社会教育再生？」の突破口ともなるということである（その意味では、かの「社会教育士」の活躍如何は、実に大きい?!）！

もちろん、そこでの各々には、人事異動や各種の制約（「前例踏襲主義」や「役職・立場の限界」）の下で、粛々と与えられた仕事をしている（直接には関係がないと思っている？）、あるいは目の前の業務をこなすのが精一杯でいる人達もいる（余裕で、あるいは上手に手を抜いたりして、その場を凌いでいる人もいるかもしれないが？）？！だからこそ、それらを何とかするためにも、絶対に必要となってくるのが、新たな「関係者のトータル・コーディネーター（教育協働コーディネーター）」、そして、その「ネットワーク（協力体制）づくり」である！

であれば、我が「教育協働セミナー」は、そうした、言わば「時代が求める」新しい人材への注目（養成）としたいが、それ自体は分を超えている？、彼らへの可能な限りの支援を行っていくことが、次なる形となる？！それが、それこそ私の最期のあがきとなるのか、それとも、新たな可能性の追求となるのか？もちろん、それ自体は、今の私には分からないが、賛同する人達、人知れず何とかしようと思っている人達が、力を合わせ、情報の共有や新しいシステムの構築を行うことが出来れば（しかも「仕事」として!）、これほど嬉しいことはない?!そんなことを思っただけで、ここでの論考でもある！（つづく？）